# 浄青神奈川

大本山光明寺御法主　藤吉慈海台下御染筆

神奈川浄青機関紙

第12号

発行日
昭和60年10月1日

発行所
鎌倉市材木座6－17－19
光明寺中神奈川教務所内
浄土宗神奈川教区青年会

発行人
野中岳道

編集委員会
森本祐康
西井久雄
吉水智栄


## 良忠上人七百回遠忌に当り

# 「記主禅師に学ぶ」

大本山光明寺執事長　北邨謙順上人

去る六月十日・埼玉浄青担当の関ブロの結集がありましたので、昨年鎌倉本山で結集された謝念をこめて埼玉県本庄市の会場へ参りました。祝辞を述べる光栄を得ましたので、その内容をざっと申し上げますと左記のようなことであります。

先日、鎌倉大仏様の高徳院に佐藤密雄先生をお訪ねして、藤吉法主と私と三人でお話を交わしている時、何かのはずみで私が一つお尋ねをしました。「何故、仏教がインドで滅びたのでしょうか」「それは種々理由があるけれども、その最大の理由は仏教が庶民大衆の中に生きていなかったことでしょう」「え、そうですね」ということでありました。さて、釈尊一代八十年の化導のご精神を始めて具現されたのが実は宗祖法然上人の教えではなかったか。そして、この宗祖のご精神を体現されたのが三祖上人に違いない。三祖様は該博な知識学問によって記主と仰がれるのではあるが、それと共に各地を教化された多年のご苦労の姿を、私共は忘れてはならない。衆生と共に生きるそのご精神によって、今日の浄土宗を築く基盤となって下さった。というような事を申し上げたと記憶しています。

翻って考えてみますと、釈尊滅後の教団は、出家僧団として釈尊の教えを守り戒律生活に生きた姿は一面大事な尊いことではあったが、釈尊が入滅のその際まで倦むことなく果された衆生摂化の精神は遠ざかった。そしてインド・中国・日本と伝来した釈尊仏教の本当の精神は宗祖の出現によって始めて開顕され、以後の鎌倉仏教が庶民の仏教として生きてきた事実を思うとき、法然上人が大師釈尊と仰がれた意味を明確に認識することができます。そして、大権の垂迹たる宗祖念仏の精神を実践体現されたのが記主禅師良忠上人であります。

良忠上人は三祖様からお別れされて以後、九州・中国地方・京洛から伊勢を経て信州に及び、そして関東化導ののち鎌倉止住十数年のあと、老軀を鞭打して京都に上られたその化教のお姿を思うとき、衆生をみすてたまわぬ仏願に生きた大悲摂化の実践そのものであり、私共が常に胸奥に忘れてはならない姿勢であります。

三祖様に学ぶところを要約すれば「学問」と「実践」と「教化」の三つでありましょう。浄青の掲げるスローガンは「自行化他」でありますが、その体現者が三祖であり、然もそれが結帰一行三昧の宗祖の念仏にすべて統摂されて生きているのであります。

今日の時代は形式的・組織的に機構の整った宗団となりつつあることは結構なことではありますが、それが本当に生き生きと生きているのかどうかが問題であります。「仏作って魂入れず」では困ります。その生命力は各人の魂にあります。その意味から私共自身が本当に念仏に生きているのかどうか、釈尊や三祖の精神に生きようとしているのかどうか三思再省する秋であります。

とかく私共は誰かがやればよいので、自分にはその力なしと観念する嫌いがあります。それでは宗祖念仏の精神に背くものと存じます。一人一人が生かされるのが念仏の本義であります。三祖も苦悩研鑽の中から宗祖念仏に帰結されたのであります。浄青諸師の今後の奮起精進を心から切に念願するところであります。

# 良忠上人700回遠忌にむけて

会長　野中岳道

里見前会長の任期を引き継いでの一年間でありましたが、本年度も全浄青執行部の任期に合わせ、去る四月二十日に開催された神浄青定例総会で一年間の任期延長を承認され、六十年度も会長にとどまることになりましたので宜しくお願い申し上げます。

本年度における神浄青の大きな活動のものの一つは、来年（六十一年度）大本山光明寺で厳修される良忠上人七百回遠忌法要への参加であります。遠忌法要は昭和六十一年五月四日から七日までの期間で厳修されますが、大本山光明寺の要請で四日間の内一日を我神浄青が法要を厳修することになりました。このことは、神浄青にとりまして大変名誉なことであり、また責任の重大さを痛感いたします。この法要の内容につきましては、実行委員会を組織し、具体的な内容作りを行っておりますが、浄青らしい特色のある意義深いものにしたいと存じます。また、この遠忌法要には、大本山光明寺から清掃ならびに準備等の手伝いの要請があると思われますので、その時には、法要への参加と同様に会員諸師の積極的な参加をお願いする次第であります。

もう一つは、昭和六十一年三月下旬に予定している「青年の集い」の開催であります。これは、本年三月に川崎の教安寺で開催された「帰敬式」の勉強会を糧に、「帰敬式」もしくは「授戒会」を青年層を対象に開催したいと存じます。若い人々に一人でも多く「念仏を申せる人」を育てていきたいと念願しております。

船が出港する際、大勢の人々の力がなければ迷走してしまいます。舵取の人、エンジンをうごかす人、気象を見る人等、それに仏天の加護のおかげにより船は大海へと航行します。それと同じように浄青会員相互の協力と教区・本山・諸先輩上人のご指導なしでは浄清活動の進歩発展はないと確信いたしますので宜しくご支援、ご助力をお願いいたします。

さいごに、立派な浄土宗僧侶としての自覚をもって社会も、檀家をリードし、ただの墓守りではなく社会のためにつくそうではありませんか。この荒波の社会の船長として、我々僧侶がいるのです。

# 第十三回 関ブロ大会報告

戸松秀明

第十三回関東ブロック浄土宗青年会・総会並研修会が、六月十・十一日の両日、埼玉教区浄青主催のもと本庄市埼玉グランドホテルに於いて行われた。

「自信教人信」の大会テーマを掲げた境順正理事長の導師で開白法要が営なまれ、百三十名を数える参加者により総会が開催された。基調講演は、東京教区教化団長土屋光道師による「自信教人信」―浄青会員に対する提起―というお話しをいただいた。休憩をはさみ、信濃デッサン館々長窪島誠一郎先生による「絵のこと、生きること」の講演が合わせてあり、一般の聴講者を交えて、熱心に先生方のお話しを拝聴した。

夜は、中華料理を賞味しながらの懇親会が行われ、郷土芸能や教区対抗のカラオケ大会を楽しみながらひとときを過した。また、二次会や本庄の町へと出掛け、懐しい同胞達と夜の更けるのも忘れて、飲み、語り合う「九輪の波紋」が、いつまでも見受けられた。

第二日目は、眠い眼を擦りながらの、朝のおつとめ、各教区活動状況報告が行われた。

シンポジウムには「自らの自信教人信」ということで、全国浄土宗青年会第二代理事長竹田英宣師、第三代金田進徳師、第四代江口定信師より貴重な体験談等を伺うことができた。そして、九テーブルに分れた会員が、三師に対する質問や意見をまとめ、改めて質疑応答を行うなど、積極的にシンポジウムに参加する姿勢を垣間見ることができた。

短い一泊二日の大会ではあったが来年もまた、群馬大会で会うことを約束して閉会した。

# 全浄青の状況

## 代表者研修会報告を中心として

伊藤彰哲

全浄青の事業としては、研修会活動として、中央研修会と代表者研修会があります。

中央研修会は、テーマの敷衍と推進・会員相互の親睦を目的とし、昨年は、「青年に念仏を」―さまざまは地域と機根を見つめて―のテーマの下、第十四回中央研修会が、宮城県秋保温泉に於て開催されました。東北ブロック担当のもと、基調講演に仏教大学助教授・広瀬卓爾先生を迎え、二三二名という史上最高の参加者を得て大盛況裡に円成致しました。（詳細は「青年浄土」第二二号参照）

代表者研修会は、各教区代表と将来の人材育成及び浄青の組織強化を目的とし、今年二月二十六～二十七日の両日、関東ブロック担当の下、大本山増上寺を会場に開催されました。

テーマ「全浄青の現状と展望」の下、a、研修会について。b、救済活動について。c、全国在家青年会について。の三分科会に分かれ、全浄青の将来はいかにあるべきかについて、熱のこもった討議がなされました。

a、分科会「研修会について」では、中央研修会と代表者研修会について、位置づけ・日程・会場・テーマ・内容等の検討がなされました。

中央研修会については、開催時期・日程共現行通り、開催地についても同様で、基本的にはブロック持ち回りが理想的である。内容については方法論について様々な意見が出されました。

代表者研修会については、中研と代研の両者の位置づけをはっきりさせる目的から、多人数の出席にこだわらず、各教区の代表二名により、真剣な態度で研修を持つ。内容については、教区に持ち帰り実践に役立つもの、教区での問題等を研究アドバイスする。開催地は、交通の便等も考慮し、大都市の寺院（或は大本山）でよいが、当該教区の負担も考え多少の移動、持ち回りも一考、という意見が出されました。

b、分科会「救済活動について」では、現在の全浄青の救済活動の問題点として、即応体制・基金・災害救助法の発令されない場合の三点が挙げられる。

即応体制については、昭和五十一年十一月一日実施の「全国浄土宗青年会救済センター」規則があり、それに基き被災地の救済活動が出来るようになっている。しかし、それには、救済対象が「国の災害救助法の適用された被災者」ということになっており、それらに対して、義援金、実質的救済活動等を行うのであるが、災害救助法発令後という制約があるため、災害救助の要である即応体制がとれない。その点を考慮し、現時点では、まずしっかりとした体制作りが急務である。

増上寺―代表者研修会―

基金については、六十年二月二十日現在の救済センター基金は百十二万六千百八円であり、これだけの基金では満足な活動が出来ない。だから、まず基金確保が急務である。その方法として、各教区で恒例的に行っている募金活動からの拠出、教区負担金等の方法が考えられる。それに加え、災害発生時の街頭募金、キャンペーン等も必要である。又、今後は、災害救助法の適用されない、海外救援についても考慮すべきではないか等の意見も出されました。

c、分科会「全国在家青年会について」では、全国在家青年会結成は、寺院に属する総ての会は、寺門の興隆、浄土宗の念仏弘宣を目的とするといった、我々が大目的とする総ての条件と合致する。だから、結成の為の手引書を作成し、在家青年会結成の呼びかけを是非してほしいとの意見が出されました。

全浄青は、これらの意見を踏まえた上で、組織の強化と更なる前進を期したいと思います。

最後に、昨年十一月に各教区浄青活動のアンケートを実施し、今年五月にそのまとめが出来上りました。この報告書をもとに教区浄青の組織・活動の活性化等に利用戴ければ幸甚でございます。

# 『帰敬式』について

東京教区教化団々長
土屋光道上人

神浄青は、三月九日川崎教安寺を会所として、東京教区教化団々長土屋光道上人を講師として、「帰敬式」の講義を拝聴した。これは、昭和六十一年三月に予定している行事「青年の集い」のたたき台として企画されたものである。

帰敬式とは、仏・法・僧の三宝に帰依する三帰戒から由来するもので これが帰敬式における根本である。

帰敬式を行うには、まず浄青一人一人の心持ちが大切である。つまり積極的な心持ちを、いかに浄青全体に浸透させるかというのが問題である。これは昨年東京浄青の帰敬式の際に感じたことであるが、ただ受者が多い、又は少ないというのが問題ではなく、その準備のために大勢の浄青会員が集り結束し、行動するのが大切である。そしてその結果、檀信徒とのつながりが強くなり、又浄青自身の内部的団結も強くなるということである。

このようなことを踏まえて、帰敬式を準備するよう考えて欲しい。

さてその目的であるが、今、何故帰敬式を行うのか。これは解っているようで解っていないものである。中途半端な目的ではなく、充分確信をもったうえで、始めてもらいたい。内容的には、十二門戒儀を中心にするが、戒というものにとらわれず仏教徒の根本条件である仏・法・僧、つまり現代語に直して、明るく、正しく、仲よくと説き、人間が、又人生が、仏様の御心に、御教えによって生かされているんだと説くことが良いであろう。

このような手段によって、誰にでも解かる仏教として拡めることに、大きな意義がある。それは人生の中の根本欲求は死を恐れることである。これを回避するために人々は悩み、苦しんでいるのだから仏様の命の生活に触れた時、初めて死の恐怖から解決されるのである。つまり我々の人生というものの尊さ、この肉体の総てが多くの縁起によってたまわった仏様の命である。そして我々はその尊い命を使わせて頂いていることを思い、その命が、私利私欲に動かされるのでなく御心に適うこと、これが大切なのである。

ありがたいということを理屈ではなく、仏様の授かりによっている、ということがすなわち念仏の人生なのである。

今の世の中は、食べ物がないのではなく、お金がないのではなく、信仰心がないということを教え、仏様の光や智慧の光によって信仰心を燃えあがらせることが必要である。

このように仏教を我々の生活と密着させ、その中で仏様と私を中心に三帰依を説いていくことが最良ではないだろうか。ややもすると、我々は難しい言葉や儀式に片寄るが、相手の身になって言葉や作法を考えた方が、受者は理解しやすいだろう。又受者は、僧侶に対しある種の先入観をもっているので、そのイメージを吹き払い、細いところまで神経を張りめぐらせることが、重要である。そしてこの縁が、帰敬式にだけで終わるのではなく、作礼を行うことによって我々の考えを深く浸透させ、仏様の教えを拡めることができれば帰敬式を行ったことの意義が見出せるであろう。

（宮林雄彦）

# 組だより

## ●京浜組

京浜組浄青も間もなく九年目に活動が入ろうとしております。組浄青独自の活動もここ三・四年特に活発になって参りました。今年度は新たに三名新会員が加入し、十二名の陣容となって益々充実したものとなって参りました。今年度の主な活動としては、夏休み子供修養会、布教研修活動があげられます。前者は小学生を対象に良忠寺様を会場として一泊の修養会を行っているもので、今年で四回を数え、参加者も六十数名に達しています。後者には二点あり第一には、組御寺院（大徳寺様・正蔵寺様・正行寺様）の施餓鬼会、十夜法要の布教の担当で、とてもよい研鑽の場となりました。改めまして場を提供下さった御寺院には感謝申し上げます。第二には、専福寺成田光俊上人を講師に迎えました布教講習会で、十五分程の実演に対する講評を中心としたもので、三ヶ月に一度開いております。また、二ヶ月に一度例会を開き、親睦と研修を行っております。その他、上部団体への参加としては、全浄青大会に五名、

第4回子ども修養会

次に紹介します。

①通夜念仏 ― 大本山光明寺にて、組内十七名、組外十名と多数の参加を得て実施。夜ふけのラーメンと朝がゆの味が忘れられない。

②法式 ― 大河内義雄先生をお招きしての札讃の研修と、西念寺北郁上人ご指導による諷誦文研修。

③教学 ― 常念寺村瀬上人による、「選択集」の講義。

④托鉢 ― 十二月納めの御忌会に行なう毎年恒例の歳末助けあい托鉢。今回は十八万円余の浄財をアフリカへ。昼食のご供養は、無量寺お檀家「音羽」にて。

⑤広報 ― 毎月、手書きのコピー刷り新聞を発行。いろんな人の字が登場する〝ほのぼの情報紙〟

⑥家族親睦会 ― 御殿場「富士見窯」にて陶芸とスイカ割り。神浄青野中会長親子も参加。

⑦ボーリング大会 ― 今回の優勝はOBの小杉師。ガンバッテマス！

**会員の近況**

〈晋山〉
常光寺　阿川文叡師
春光院　石川邦雄師

〈新入会員〉
心光寺　柴田幸博師

〈トピックス〉
常光寺　阿川文叡師…第四子誕生
大見寺　木村敦英師…正大副手就任

## ●小田原組

昨今の小田原浄青は、(1)資質向上(2)連携強化、(3)照顧脚下、(4)照世間の四つの目標をかかげて活動にとり組んでいます。昨年度の主な活動を関プロ大会に五名、その他、夏期僧堂・光明寺清掃奉仕開山忌・十夜念仏行進にも参加者を出しております。

**会員近況**

○結婚
一行寺　吉水智栄師

○副住職認証
良忠寺　森本祐康師
善養寺　古庄良源師
一行寺　吉水智栄師
大光院　宮林雄彦師
専念寺佐々木敬易師

## ●鎌倉組

当、鎌倉組も発足以来八年目を迎え、組織としての体制もようやく整いつつあります。

年間事業としての港南組合同の法式講習会、三浦組合同の年末托鉢募金等も着実にその成果を上げてきております。しかし、当組は兼職者も多く事業活動時の会員動員には、今一つ欠けるところが有ります。又、現執行部は大半の者が年令三十代後半であり、ここ数年の間に若手会員の参加を積極的に促してゆく必要があります。

又、五十九年度、六十年度、と当組内より野中岳道師を神奈川浄青会長として送り出しており、組内会員も組浄青並びに県浄青と多忙な年となりました。

本年は役員改選の年であり新しい執行部は次の通りです。

（会長（兼・会計　鳥居真理
事務局　國松俊康

又、昨年十二月・大本山増上寺に於て、鎌倉・西念寺富田浩雅、横須賀・正業寺渡部俊賢の両君が加行を成満されました。今後の活躍を期待致します。

## ●港南組

六十年度港南浄青は、高島会長の任期満了に伴い、新成役員選出。より多くの会員の参加を主眼とし、「念の充実をめざして」を、テーマに自行、化他、和合の実践活動を行っています。

研修活動としては、布教研修を三回、鎌倉浄青と共催で行っている法式研修を四回実施、会員相互の研鑽を深めています。

教化活動としては、全浄青テーマ「青年に念仏を」を受けて、組内寺院青年檀信徒と、教化の一助としてのスポーツ交流を企画、五月十九日に原宿・大運寺檀信徒と大運寺近くの広場で、ソフトボールを両チーム

ディズニーランドにて

総勢二十五名で開催、試合後和やかな内に親睦を計る事が出来ました。十二月下旬には、戸塚駅前にて歳末助け合い募金を行います。

親睦活動としては、七月二十六日東京ディズニーランドへ、見学と家族親睦を兼ねて実施。独身会員四名を含め二十八名の参加を得て無事終了する事が出来ました。

又、九月十六日には、毎年恒例である港北浄青との対抗ソフトボール大会及び両組の家族親睦会の開催を予定しております。

会員近況

加行成満　中田寺　香川法雄
新入会員　三仏寺　吉川順司

## ●港北組

港北浄青は、昨年設立十周年を迎えました。この十年間の港北浄青の歩みをふりかえってみますと、機関紙「港北浄青」の発行、善導忌の記念講演会や本山から講師をお迎えしての法式講習会・研修会、「花まつり・子供大会」の一般児童を対象とした情操教化事業、港南浄青との対抗ソフトボール大会ならびに家族親睦会の、浄青会員相互の交流をはかり親睦を深める事業等、数多くの浄青活動を行ってきました。しかし、現在会員が減少し浄青活動が思うにまかせないのが現状です。その打開策として、浄青を組組織に入れていただき、組教化分団との連携や組から多大な財政的援助をいただくようになりました。

今後は神浄青や関東ブロック浄青等の活動に積極的に参加して、少しでも港北浄青の活動に停滞がないようにつとめていきたいと念じております。

港南浄青との家族親睦会(60.11.23)

## 試合結果

| 第1試合 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 港南・小田原 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 京浜・港北 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |

| 第2試合 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 鎌倉・三浦 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| 京浜・港北 | 1 | 2 | 0 | 4 | X | 7 |

| 2位決定戦 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 鎌倉・三浦 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 5 |
| 港南・小田原 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 5 |

# 第二回 神浄青 関ブロ ソフトボール大会

夏見裕貴

昭和五十九年十月二十九日(月)、神浄青教区長杯争奪ソフトボール大会が、横須賀市追浜球場において午前十一時より開催された。

当日は、曇っており肌寒い天候であったが、参加総数三十三名という、他の行事ではなかなか揃わないような会員が集まりました。

参加者の人員上、チーム編成としては、京浜、港北、高座のチームと港南、小田原のチーム、鎌倉と三浦のチームの計三チームに分かれて試合を行った。各チーム共、現役、OB、知り合いの中より厳選?された精鋭が出場、白熱した好ゲームが展開された。

試合前"おい　がんばれよ"

優勝チーム

又、普段なかなか浄青活動に参加出来なかった会員も、この時とばかりに活躍し今後の神浄青の活気ある活動を期待させた。

結局試合結果は、二勝した京浜・高座・港北の連合チームが優勝した。二位決定戦は五対五の引き分けとなり、仲良く同点の二位となった。

## 関ブロ ソフトボール大会

十一月十一～十二日（一泊二日）群馬県にある伊香保温泉にて第二回関ブロソフトボール大会が開催され神浄青からも多数参加致しました。十一日は伊香保温泉にて懇親会を行い、親睦を深めるとともに、試合前の栄気を養い、翌十二日渋川市の市民グランドで、熱い戦いが繰り広げられました。

前年度優勝のわが神浄青は、今大会においても優勝チームの筆頭に上げられてはいたが、他チームのマークが激しく、リーグ三位というとても不本意な成績に留どまってしまった。

また、場所が河川敷であり上州名物の「カラッ風」が強く、砂ぼこりがひどく度々試合が中断する程で、精神力を集中出来なかったのが敗因ではないかと思う。

来年は、チーム一丸となり、V奪回を期待したい。

## 十夜法要・念仏行進

野呂幸忍

昭和五十九年十月十四日例年通り光明寺十夜法要における念仏行進を神浄青会員十数名と共に、鎌倉駅まで行進し、駅前において街頭説法を二十分ほど行い、光明寺へと戻ってまいりました。そして昼食後、唱導師である中田寺住職香川隆善上人の行列に参加させて頂きました。尚、本年度は長野県の王滝村で大きな地震災害があり、神浄青としても、義援金を災害地に送る事を決定し、唱導師が光明寺本堂に入堂後、光明寺境内において、参拝者の皆様より浄財を頂く為、会員が本堂前、山門と四ヶ所に分散して募金活動を行い、約二時間ほどで十数万円の浄財を集める事ができました。この浄財は全浄青をへて王滝村へ送らせて頂きました。光明寺参拝者の皆様の暖かいお心に感謝し、念仏行進の報告とさせていただきます。

## 第八回 花まつり愛のプレゼント

去る四月二十日、釈尊の降誕会を祝して毎年実施している「花まつり・愛のプレゼント」が開催された。教区内多数の寺院から寄せられた食料品等の生活必需品を金沢母子寮へ贈り、あわせて施設の子供達と、「花まつり」の一日を楽しく有意義に過ごすことを目的にしたこの企画も本年で八回をむかえた。浄青会員が行う手品やゲームのアトラクションに母親と共に子供達が歓喜し、また誕生仏に合掌する姿はまさに「花まつり」にふさわしく感じられた。

## 第十五回 全浄中央研修会に参加して

長谷川光順

去る8月28・29日、名古屋（名鉄グランドホテル）を会場に「青年に念仏を」というテーマで、公開討論会が催されました。教化の実際について四名のパネラーによって熱のこもった討論がなされました。「教化者は対象を見極めて、自己満足に陥いらないよう反省しながら、客体である地域の持っている文化性を充分に認識しながら、教化の実をあげてゆく必要があるのではないだろうか……。」というような結論に達しました。

実際に教化に携わっている人達の話は、実に力強いものだナーと感心させられました。

翌二日目は、会場を建中寺に移しブロック発表の後、牧達雄師による帰敬式の実演がなされました。初めて拝見させていただき、深い感銘を覚えました。私も将来は自坊で何か教化の実際をしていかなければいけないような気持になって、帰路についた次第です。「青年に念仏を！」……実は私自身に念仏を！……と言われているようでありました。

建中寺にて

## ソフトボール大会のご案内

☆☆第三回教区長杯争奪
ソフトボール大会☆☆

一昨年神浄青設立十周年を記念してヨコハマスタジアムで開催された教区長杯争奪ソフトボール大会が本年も会場を三ッ沢球技場に移して次のとおり開催されます。また試合後、会員の親睦会を開催いたします。神浄青会員の皆様奮って参加されますようご案内いたします。

◇試合方法
各組浄青二組の混成チームを四チームに編成し、対抗戦で勝敗を争う。

◇日　時
昭和六十年十月二十四日(木)
一時集合・一時三〇分試合開始

◇場　所
三ツ沢グランド・球技場

◇懇親会会費……三、〇〇〇円
※雨天のときは、各組対抗ボーリング大会に変更して行います。

☆☆関東ブロック浄青
対抗ソフトボール大会☆☆

第三回関東教化センター委員長杯争奪ソフトボール大会が次のとおり開催されますが、神浄青選抜選手を十月二十四日に行なわれる神浄青各組対抗ソフトボール大会で選出いたしますので、是非神浄青大会に皆様の奮起を期待いたします。

◇大会日時
昭和六十年十月三十一日(木)
午前九時　試合開始

◇場　所
茨城県勝田市　勝田運動公園

※なお、前日三十日に関東ブロック浄青の懇親会が大洗シーサイドホテルにおいて午後六時三十分から開催されます。参加される方は神浄青事務局まで申し込み下さい。

## 総会報告

四月二十日(土)大本山光明寺において、神奈川県浄土宗青年会定例総会が開催され、議長に港南組・高島善隆師を選出し次の議案を審議した。

一、昭和五十九年度事業報告
一、昭和五十九年度一般会計・特別会計報告
一、新役員の選出
一、昭和六十年度事業計画
一、昭和六十年度一般会計・特別会計予算

以上の議案を審議し、執行部の原案どおり承認された。なお、新役員の選出については、里見前会長の全浄青理事長就任に伴い、暫定的に一年間の任期で五十九年度選出された現執行部が全浄青役員の任期に合わせるため六十年度も引き続きその任にとどまることで承認された。

総会の最後に加行成満者の方々に大本山光明寺御法主御染筆の色紙を当会から成満のお祝いに贈呈した。

59年度加行成満者

## ◆六十年度年間行事予定

六月上旬　第一回理事会　光明寺
六月十日～十一日
　第十三回関ブロ大会
　埼玉県本庄市
七月三日　第二回理事会及び
　光明寺開山忌前清掃奉仕
七月二十九日～三十一日
　夏期僧堂手伝い
八月二十八日～二十九日
　第十五回全浄中央研修会
九月　第三回理事会
十月上旬　十夜前清掃奉仕　光明寺
十月十四日十夜法要街頭伝道念仏行進
十月二十四日　第三回県ソフト大会
十月三十日～三十一日
　第三回関ブロソフト大会
　茨城県担当
十月下旬　第四回理事会　光明寺
一月　第五回(一泊)理事会
二月　全浄代表者研修会
二月下旬　研修会
三月下旬　青年の集い
四月中旬　第六回理事会、花まつり
四月下旬　総会　光明寺